近畿学校保健学会通信

No.79

平成6年8月31日発行
近畿学校保健学会事務所
〒520 大津市平津2丁目5－1
滋賀大学教育学部健康学研究室内
TEL 0775—37—7795
振替口座 01060—1—77589

目　次

第41回近畿学校保健学会を終えて …… 1
第41回近畿学校保健学会報告 …… 2
1．総会記録 …… 3
2．一般講演についての座長コメント …… 6
3．特別講演 …… 12
4．学会印象記 …… 14
近畿学校保健学会名誉会員・評議員名簿 …… 17
近畿学校保健学会会則 …… 19
近畿学校保健学会役員選出規程 …… 20
平成6年秋の関連全国学会・大会案内 …… 21

第41回近畿学校保健学会を終えて

第41回近畿学校保健学会
学会長　八　木　　保

梅雨時のこと雨天を覚悟してはいたが、6月11日の学会当日と会場設営のための前日とも天気に恵まれ、それだけでも大変に幸せなことであった。

午前中の一般研究発表をゆっくり聞かせて頂く余裕はなかったが、大変盛況であるとの情報が入るとともに、少しは聞かせて頂くあの熱心な討議とその雰囲気を大変嬉しく思いました。研究発表があっての学会です。貴重な研究の成果をご持参下さいました会員の皆様に心から感謝申しあげます。

今年は折しも平安遷都から1200年目にあたり京都では諸種の記念行事が計画されておりますが、この学会としてはこの年にあたり「保健事情の今と昔」とのテーマをとりあげてみたいとの思いがありました。まず今日の先端的な医学の面から京都大学総長井村裕夫先生が講演を応諾して下さいまして誠に有り難いことでした。この日は米国で講演の予定であったのですが職務ご多忙の故にそちらは断念され、こちらの学会の方へ頂けて我々としては幸いなことでした。そした、歴史をさかのぼり、平安朝の医術書と文学と

今日にも伝わる風習とのお話に酔わせて頂いた作家で古典医学研究家の槇佐知子先生、ほんとうに有り難うございました。

会場の準備から受付・進行の役を勤めてくれた学生諸君には学会の経験ははじめての２回生も多く、今後の自分達の学問との取り組み方にも参考となるであろうし、また印象にのこる経験をして、勉強になったであろうと、参加された先生方・講師の先生方に御礼申し上げる次第です。

最後になりますが本大会を後援して下さった京都府教育委員会・京都市教育委員会、協賛して頂いた京都府医師会・京都府歯科医師会・京都府学校薬剤師会･平安建都1200記念協会、諸種の援助を頂きました企業各社、そして運営委員会の先生方のご協力に対しまして感謝申し上げ、お陰様で無事盛大に本大会が終了しましたことの挨拶とさせて頂きます。

来年は兵庫教育大学教授勝野眞吾会長のもと兵庫県で開催される第42回近畿学校保健学会に、また集まりましょう。

この度は皆様、誠に有り難うございました。

第41回近畿学校保健学会報告

本年度学会は八木保京都大学教授（総合人間学部）を会長として、京都地区の関係者のお世話により、平成６年６月11日㈯に京都大学医学部付属病院臨床講堂を会場として開催されました。

午前中の一般講演は三会場に分かれていましたが、それぞれ今日的な子どもの健康問題が、多面的な角度から討論されていた様に思います。午後からの特別講演は、井村裕夫京都大学総長による「健やかな身体と心の調節」についての講演を拝聴しました。長年内分泌の研究に取りくんでこられた立場から、身体と心の調節について、分りやすく説明された。ひき続き古典医学研究家の槇佐知子先生による、「平安朝と医心方」のお話を拝聴した。日本古来の医心方におられる色々な話題のなかにも、現代社会において参考となる指針が思い出された様であった。その後の懇親会を含めて、本年度の年次学会も盛会裡に終了しました。

この学会の企画と運営に大変ご尽力いただいた八木保学会長はじめ、津田謹輔事務局長、並びに多くの京都地区会員の方々に心からお礼申し上げます。

以下慣例によりまして、当日の総会記録、一般講演の座長コメント並びに特別後援のまとめ、学会印象記を記して学会報告にかえさせていただきます。なお、最後になりましたが、平成６、７年度の役員改選の結果、ひき続き幹事長を継続する事になりました。微力ですが本学会の充実と発展のため努力したいと思います。会員の皆様のご支援とご協力の程よろしくお願いします。

（幹事長　　林　　正）

1．総 会 記 録

1）学会長挨拶

第41回年次学会長の八木保教授が挨拶。

2）議長選出

慣例により前年度会長猪尾教授が議長を務められる予定であったが、病気欠席のため松岡教授が代行として議長に選出された。

3）議　　事

(1) 平成５年度会務報告

①会員数　398名（名誉会員14名を除く）

②会議開催、学会通信の発行など

平成５年４月10日　第１回幹事会（於：和歌山大学教育学部附属小中学校）

５月20日　学会通信№75発行

６月12日　和歌山大学教育学部付属小中学校において第40回年次学会を開催

（会長　猪尾和弘教授）

平成５年度評議会及び総会を開催

８月31日　学会通信№76発行

10月30日　第２回幹事会（於：京都楽友会館）

平成６年２月１日　学会通信№77発行

３月11日　第1回選挙管理委員会（日程）（於：大阪教育大学天王寺キャンパス）

４月９日　第１回幹事会（於：八尾文化市民会館）

５月７日　第２回選挙管理委員会（開票）（於：大阪教育大学天王寺キャンパス）

５月９日　学会通信№78発行

５月28日　第２回幹事会（於：京大会館）

(2) 平成５年度決算報告

石榑常任幹事より報告があり、白石幹事の会計監査による報告を受けて承認された（別表２）。

(3) 平成６、７年度新評議員、新幹事の選出について

上延富久治選挙管理委員長より経過報告がなされた。

(4) 平成６、７年度新幹事長、常任幹事の互選について

上延富久治選挙管理委員長より、経過報告があり、新幹事長として林正教授（滋賀大）、並びに常任幹事石榑清司助教授（滋賀大）を選出した。

(5) 会計監査の委嘱について

林幹事長より平成６、７年度の会計監査として、白石龍生、出口庄祐両先生に委嘱したい旨の説明があり承認された。

(6) 平成６年度予算案について

林幹事長より説明があり、原案通り承認された（別表３）

(7) 名誉会員の推挙について

林幹事長より、北村季軒教授（京都大学名誉教授）、橘重美教授（天理大学名誉教授）、中牟田正幸教授（奈良教育大学名誉教授）の３名が推挙され承認された。

(8) 次期（第42回）学会開催地および会長について

第42回年次学会は兵庫地区で開催されることが了承され、学会長を勝野眞吾教授（兵庫教育大学）にお願いすることになった。

浮御堂（滋賀）

（別表１）

近 畿 学 校 保 健 学 会 会 員 数

（平成６年３月31日現在）

所属	名誉会員	評議員	一般会員	計
滋　賀	1	26 (3)	19 (7)	45
京　都	2	28 (3)	35 (8)	63
大　阪	4	67 (8)	39 (2)	106
兵　庫	1	49 (7)	41 (13)	90
奈　良	2	23 (2)	16 (5)	39
和歌山	4	31 (2)	14 (4)	45
その他			10 (2)	10
計	14	224 (25)	174 (41)	398 (66)

（ ）内は、３、４年度会費未納者

（別表２）

近畿学校保健学会　　平成５年度決算報告

収入の部

（平成６年３月31日）

	予算額	決算額	増減	
会費収入	960,000	1,041,000	81,000	会費納入件数　347件
繰越金	661,850	661,850	0	
雑収入	10,000	0	△ 10,000	
計	1,631,850	1,702,850	71,000	

支出の部

	予算額	決算額	増減	摘要
印刷費	400,000	411,365	△ 11,365	通信№75、76、77封筒印刷
郵送費	200,000	216,380	△ 16,380	
事務費	100,000	19,082	80,918	
人件費	70,000	69,528	472	
会議費	50,000	0	50,000	
交通費	30,000	4,320	25,680	
学会補助費	200,000	200,000	0	京都へ支払分
役員選挙費	150,000	81,280	68,720	
予備費	431,850	54,000	377,850	和歌山へ新入会員（27名）分
（小計）		(1,055,955)	(575,895)	
次年度へ繰越		646,895		
計	1,631,850	1,702,850	71,000	

上記報告の通り相違ありません。
平成６年４月９日

出口左佑
白石龍生

（別表３）

近畿学校保健学会　　平成６年度予算

収入の部

	金額	摘要
会費収入	960,000	320名
繰越金	646,895	
雑収入	10,000	
計	1,616,895	

支出の部

	金額	摘要
印刷費	450,000	通信№78、79、80封筒等
郵送費	250,000	
事務費	80,000	
人件費	120,000	
会議費	50,000	
交通費	30,000	
学会補助費	200,000	
予備費	436,895	
計	1,616,895	

2．一般講演についての座長コメント

第１会場

演題番号（101～102）　　白　木　文　代（京都府教育庁保健体育課）

演題101：「保健室から見える子どものようすとその対応」は、就学時から子どもを見据えるところから始まる。その結果として、心身になんらかの不健康を記録されている割合は50％～60％であり、主原因は親の養育態度に。また、日頃保健室には怪我だけでなく体の不調を訴えて来室する者が相当数あるが、それは温かいかかわりを求めて来る。発表者はこのような実態を的確に把握し教職員体制の確立と保健室の役割（温かさと信頼）を認識し、子どもの変容に手を差し伸べる取り組み内容であった。

演題102：「高等学校保健室頻回利用生徒の経過」の発表は、年間10回以上保健室を利用した生徒について２年間の観察した結果から、来室理由を明らかにし、それに対応する保健室や養護教諭の役割について考えようとするものである。

この２題は、保健室を利用する子どもの実態とその背景及び来室者に対応する保健室と養護教諭の担う役割について研究されたものであるが、最初に対応する養護教諭の感性（気付き）、学校体制及び関係機関との連携の確立はますます重要になると考える。

演題番号（103～104）　　松　岡　勇　二（和歌山大学）

演題103：美馬　信、岡崎延乏（大阪女子短期大学、保健科）

演題104：柳生善彦（奈良県桜井保健所）山本公弘、北尾清美、植本愛子（奈良女子大学保健管理センター）

103では「高校生の易疲労性と体型・欠食・運動の関連性」と題しての発表であった。現代青少年の易疲労性の原因として前回は、体力がない、行動が積極的でない、睡眠不足をあげたが今回は標題の点から検討している。即ち、欠食頻度が多い程、体型が肥満型である程いくつかの疲労自覚症状を訴える者が多く、また運動の実施により疲労症状をより多く訴える者が多いということであった。これに対して、男女別の検討が必要であろうとか、疲労は運動の好き嫌いと密接に関連しているのではないかなどの意見があった。更に表には、有意差検定の結果を示す工夫が欲しかった。

104は「女子学生における喫煙関連疾患に関する知識」と題して平成４年度と平成５年度の比較をしたものであった。それによれば１年後の調査で、受動喫煙に対する情報体験や、喫煙関連疾患としての心筋梗塞に対する理解が有意に高率であったが、喫煙者そのものは増加しており同時に、母親の喫煙も増加傾向であったという。アンケート調査対象者が両年度において全く同じではなかったことによるものなのか、喫煙関連疾患に関する知識の向上があった反面、喫煙者が増加していることは憂慮すべきことであろう。

演題番号（105～106）　　金　井　秀　子（京都教育大学）

演題105：血清総コレステロールを10歳から14歳の４年間にわたって追跡測定し、10歳時に高値群にあったものと、中位群、低位群にあったものと比べ何倍の確率で14歳時に高値群に移行するかを検討されたものである。血清総コレステロールが小児期から強いTrackingが認められることを指摘し、小児期からコレステロール値を把握することが、成人病予防に重要であることを提唱された。今後長期追跡による研究が期待される。

演題106：10歳児について、８年間の脂肪酸摂取量の変化について年度別、性別に検討し、五色総合栄養調査システムによる栄養調査もおこない、アメリカのThe Bogalusa Heart Studyと比較考察された。女子の飽和脂肪酸（ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸）の有意な増加がみられたが、脂肪摂取量はBogalusa と比べて低いことを明らかにされた。五色町の児童・生徒の栄養実態からも、成人病予防の健康教育の必要性について述べられた。

演題番号（107～108）　　森　下　玲　児（京都大学保健管理センター）

演題107：高島　雅行ほか（京都市学校医会血圧研究会）

昭和53年度の同様の報告に引き続いて、今回は平成５年10月に京都市全域から、27,000余名（小学１年～高校３年）をピックアップして、血圧異常の検討を行った成績が報告された。高校生のサンプル数が少ないことや、高値群を平均＋２S．D．としたため、男子高校生でWHO基準より高い値を示す人が高値群に属するなど、多少統計処理に問題があるが、その成績によれば、概ね経年的に血圧の上昇を認め、高血圧傾向を示す児童生徒が各学年で２～３％に認められている。血圧とBMIとの間には有意の相関は得られなかった。今後、成人病予防の観点から、若年期高血圧は看過できない問題である。

演題108：早川　滋人ほか（琵琶湖病院、京都府立医大精神医学教室、京都府立医大泌尿器科学教室）

夜尿症児94名を膀胱内圧・脳波終夜同時測定法で三群に分類した。Ⅰ型は脳波反応膀胱内圧正常型で、62名（66％）がこの型で、平均年齢は10歳２ヵ月であった。この群は膀胱機能および上位中枢からの膀胱制御は正常だが、中枢の覚醒機能の障害もしくは未熟なため完全に覚醒せずにおこる。Ⅱ型は脳波の反応が得られず、深い睡眠状態で夜尿を生じる型で、さらにⅡa型とⅡb型に分類され、Ⅱa型は脳波無反応膀胱内圧正常型で、膀胱からの刺激が不十分もしくは求心性神経路の機能的、あるいは器質的異常によっておこり、９名が属し、平均年齢は11歳２ヵ月であった。Ⅱb型は脳波無反応膀胱内圧過活動型で、深い睡眠時に膀胱に無抑制収縮が頻発し、膀胱内圧の変化に脳波が全く反応せず夜尿を生じる群である。23名が属し、平均年齢は10歳６ヵ月であった。病型別に親子関係などが検討されているが、このような病型分類と治療法との関係が報告された。時代的背景と本症との関連について、さらなる研究が望まれる。

演題番号（109～110）　　武　田　真　太　郎（和歌山医大）

演題109は子供の靴を考える会が、3歳から8歳になるまで6年間継続して足と靴を観察してきた結果の報告であった。通算5，6回継続調査できたのは21名にすぎず、この結果から足の正常発育を論ずることには疑問があるが、足長は毎年約1cm伸びるのに対して、靴のサイズは全般に大きいものが着用され、半数近い子供が1年後にもサイズが不変または1cm以上大きくなっていて、靴のサイズに対する母親の無関心さをうかがわせた。今までの調査結果の集約として、Eサイズの普及が必要であり、0.5cm刻みの靴を半年毎に更新すべきであるとしていた。

演題110はアレルギー児とその家族を中心に、川畑名誉会員の推奨する冷湿布マッサンマを紹介指導した結果の評価で、指導を受けた幼児から成人までの合計44名のマッサンマを始めた契機、理由、効果などが調べられた。始めた理由はアレルギー対策が21名のほか、健康の保持増進のため、かぜをひきやすいためなど多岐にわたり、その効果として、からだがほかほかする、かぜをひかなくなった、気分爽快、アトピーの軽減などがあげられていた。マッサンマの効果を否定するものではないが、今回の調査に限ってみると、効果判定のための調査計画と集計処理に甘さがあり、今後、説得力のある効果判定が慎重な計画のもとになされるべきであろう。

第2会場

演題番号（201～203）　　勝　野　眞　吾（兵庫教育大学）

近年、コンピューター、ワードプロセッサー、ＴＶゲームなどが広く普及、家庭や学校など日常生活のなかに浸透するようになり、これらの情報機器のもたらす健康上、あるいは教育上の影響が注目されている。これらを含め、ストレスと健康に関する問題は現代社会における今日的課題である。201～203の3題はこのような視点から行われた。

演題201：金田ら（京都教育大学）はＴＶゲームの脳機能に及ぼす影響について実験的検討を行い、ＴＶゲーム負荷は認知機能を低下させると報告した。ここでは男子大学生10名を対象に、2時間のＴＶゲーム負荷を行い、前後の事象関連電位、課題反応時間が分析されたが、負荷刺激としてのＴＶゲームの特異性（SPECIFICITY）を明らかにするためには対照の設定が必要である。今後、他の視覚刺激や運動刺激負荷との比較検討が望まれる。

演題202：萱村ら（武庫川女子大学）は大学生のコンピュータ操作に対する感情とパーソナリティ要因の関連を調査し、コンピュータに好意を持つ者と嫌悪感をもつ者では自我特性とコンピュータ操作時の疲労感などの感覚に差があると報告した。このような傾向がコンピュータ操作に特異的なものであるのか、あるいは機器操作一般にみられるものであるのか、この報告でも特異性に関する検討が必要である。また、

この調査は情報処理授業受講生を対象としたので、授業形態、授業方法、成績評価など授業自体の影響をどのように考慮するのかについて、および統計検定法について質疑が行われた。

演題203：築山ら（京都教育大学）は大学生を対象に、ストレッサー、ストレス認知、対処行動とストレス反応の関連を検討し、ストレス反応の指標としての抑うつ症状の強さはストレッサーや積極的対処行動ではなく、むしろ個々の逃避的対処行動の多さ、ストレス認知評価の高さが影響していると報告した。ストレスを評価する場合にはコルチゾールレベルなど内的な生化学指標の測定を加えて総合的に分析する必要があり、この点についての質疑が行われた。また、この発表では性差についてのみ報告されたが、ストレスに関する研究では年齢、出身地域、家族構成や飲酒・飲酒習慣など対象者のバックグランドを明らかにしておくことが重要と思われた。

演題番号（204～205）　　石　榑　清　司（滋賀大学教育学部）

演題204：兵庫県下のH肢体不自由養護学校では、社会生活をする上で基本となる自己健康管理能力が不十分な生徒が目立つため、その健康教育の基礎的資料を得る目的で、健康観察および健康チェックを行い、これにもとずいた実態報告、問題分析がなされた。H校の場合、生徒の多くに他者依存の生活態度が認められ、こうした生活態度を改めさせる生活指導、保健指導の必要性が指摘され、そうした指導が生徒の自己健康管理能力向上に役立つであろうと報告された。

演題205：上記演題と同一の調査対象をもとに、全寮制肢体不自由養護学校における健康教育の基礎的資料を得る目的で、生徒の身体障害の起因疾患、その障害程度、う歯状況、身体運動機能障害以外の障害、裸眼視力などの実態について、特に運動機能以外の健康障害を中心にその実態が報告された。運動機能以外の障害では起因疾患にもとずく眼科的、耳鼻科的、・・・的疾患など、多岐にわたる疾患が認められること、視力の低い生徒が多いことなどが示され、学校教育においては起因疾患以外の疾患にも十分配慮する必要性が指摘された。また、生徒の身体障害者手帳（等級）の交付状況と日常生活実態とに多少矛盾が認められたということも報告された。

演題番号（206～207）　　三　野　　耕（兵教大）

後和らの口演内容は、初経発来前後の身長発育について検討したものである。その結果、初経年齢を生理的年齢として身長発育をみても、暦年齢でみた場合の身長発育の時と同じような個体差がみられたこと。また、初経発来後の身長の増加量に大きな個体差がみられたことを明らかにした。これらのことから初経発来と身長発育とのそれぞれ異なったメカニズムを示唆しているものと考察したものである。

今後、身長発育と初経発来、それぞれのメカニズムを明らかにすることが学習者の期待すべき身長発育

を明らかにできるものと期待される。

久泉らの口演内容は、ローレル指数の変動からみた過体重児童の発育パターンについて各個人のローレル指数の縦断的な変動パターンからライフスタイルの改善による健康教育の実施時期を検討したものである。その結果、幼稚園あるいは小学1年からすでに肥満児指導の必要性のあることを明らかにし、これらは健康教育に取って重要な項目の一つであり、健康教育、特に児童生徒自らが実践していく上で重要であることを考察したものである。

これは学校保健、特に健康教育において重要であるものの、これらの結果をいかにして学習者に実践させるべきかを今後継続して検討してほしい課題である。

演題番号（208～210）　　小　島　廣　政（京都産業大学）

演題208：下腿長と身体四計測の成長曲線の比較検討；机・椅子は、児童・生徒が日常生活の中で、それと付き合う頻度は非常に高く、それだけに、姿勢指導や体格・体型づくりの為にも重要なウエイトを占めている。本研究は、椅子等の高さを定める一方法として身体四計測を変数として下腿長を推計され、年令推移による変数の選択等の違いについて検討された。下肢長の推計式における説明変数は、下肢長と身長を選択するのが適当であるとのことであるが、学年が上になるほど相関係数が明らかに低くなる事実を考えると今後、高校生をも対象にすることによりその具体性が究明され、より一層興味深い研究となろう。

演題209：比体表面積基準チャートの作成；小学校1年次から中学3年次までの児童生徒、男女合計1287名を対象に比表面積（体表面積を体重で除す）を縦断的資料を用いて基準チャートを作成され、肥満度との関係について検討された研究である。各成熟群別チャート作成の結果、明らかに異なった基準チャートが描かれた。これは比表面積の逆数の基準チャートによって肥満と痩せが判定できるものであり、今後、教育の現場では大いに参考になる研究と思える。

演題210：比体表面積と身体活動との関係；この研究は、209の研究と同じく、比体表面積を作成され、それをスポーツテスト項目の有酸素運動に関する持久走と無酸素に関する短距離走の成績を優劣4群に分類され解析された。比体表面積が大きくなるほど有酸素運動が有利であり、体表面積に対して質量が大で、筋肉質のものが無酸素能力有利であることが実証された。これらのことは、今後の保健・体育教育指導での非常によい資料が提供できたものと思われる。他の測定項目との関係も考察されれば、その貢献度は益々高くなろう。

第３会場

演題番号（301～303）　　南　　哲（神戸大学）

演題301：初田宏明・ほか（京都教育大学）

保健学習における生徒の学習意欲を高めるために、教材の展開の仕方によって、興味関心がどのように変化するかを検討したものである。科学的メカニズムの学習展開よりも、日常行動や社会生活を考える学習展開に興味関心が示された例や、生徒の日常生活行動との関連性が指摘された。本来おさえられるべき教材の特性と生徒の興味関心との接点を吟味して、学習意欲を引き出そうという取組は、大変望ましいことであり、今後の成果が期待される。

演題302：武内克明・ほか（兵庫教育大学）

現行の学習指導要領では、薬物乱用防止の指導内容が充実したことに注目し、中学校・高校の新旧保健教科書・12種の記述内容を比較検討したものである。現行教科書では、有機溶剤・麻薬・覚醒剤のいずれの記述内容においても、旧教科書よりも充実強化されていることが確認できたとしている。さらに今後は、現行の知識教育中心の教育から、包括的ライフスタイル教育の一環としての扱いを提唱されており、継続発表をお願いしたい。

演題303：横尾能範（神戸大学）

養護教諭が全ての学校事故発生に際して、深く関与することから、学校事故事例共有システムの開発に取組み、事故の経験を有し、事例を効率よく収録検索できる書式を検討し、類似事故の経過にふれて経験を生かすこと、すなわち事故防止に役立てようとしている。全国から250名に及ぶ養護教諭の参加が予定されている。災害報告書の記載内容を越えて、事実を正確に補足することによって、今後の成果が期待されるところである。

演題番号（304～306）　　松　岡　　弘（大阪教育大学）

演題304：「西脇市内某小学校における性教育の取り組みと課題」長谷川ちゆ子（西脇市立重春小学校）

演者は急病のため欠席。（座長が研究の概略を説明した。）

演題305：「中学校における性教育の到達度を考える　－指導後の生徒の感想文集約と検討から－」

明瀬好子（神戸市立鷹匠中学校）

全校一斉に学級指導による性教育を行い指導後に生徒の感想文を分析し検討した。その結果、生命尊重・男女の協力・自尊感情・親への感謝などが認められたという。

妻形（元京都市教委）より「小中の連携と養教の役割が大切で、どんなAIDS教育を実施したか。」という質問があり「３年生にAIDS教育を予定していたが今回はできなかった。」との解答があった。

演題306：「高校生の性交体験群と非体験群の意識・態度の比較検討」岡本暁子（大阪教育大学）

高校生の性交体験に関係の深い因子は、日常生活因子、恋愛観因子、学校生活因子である。体験群は非体験群よりも学校・家庭にうまく適応できず、夜型で喫煙習慣を持ち、恋愛や性行動には肯定的であり、学校生活、特に部活動に魅力を感じていない傾向がみられたという。

演題番号（307～309）　　山　本　公　弘（奈良女子大学）

演題307　中学・高校生エイズ教材の試作研究（松岡　弘）

試作した教材を利用して、高校生に講義し、その知識、態度の変化を観察したものである。同じ教材でも、講義を受ける側の条件により、結果が異なる場合が少なくないので、対象を変えて調査を継続すれば興味深い知見が得られると期待される。

演題308　高等学校におけるエイズ教育の試み－全校的なエイズ教育実践の事例－（井谷恵子）

エイズ教育推進指定校となり、全校的な組織でエイズ教育に取り組んだ経過に関する報告である。このような実践で培われたノウハウが、それぞれの学校の実状や教育理念の違いに応じて、手を加えられながら活かされていくことが期待される。

演題309　AIDSに関する新聞記事の内容分析(2)－1982年から1992年までの記事内容－（平田繁　他２名）

朝日新聞縮刷版を用いて、エイズ関連記事の数、量、内容について観察・分析したものである。マスコミには読者（や視聴者）のニーズに応じた報道を行う傾向がある。また読者（や視聴者）はマスコミの影響を受け、妥当かそうでないかは別として、その思想や行動を変える傾向もある。このような調査をさらに発展させることによって、適切な報道のあり方を考える資料が得られるものと期待される。

３．特別講演

井　村　裕　夫

「健やかな身体と心の調節」

座長　福　田　　潤（京都府医師会）

ヒト成長ホルモンが合成されるようになった現在と違って、10数年前迄は学校での定期健康診断で低身長を指摘され、専門医療機関で精査の結集「下垂体性小人症」と診断されても成長ホルモン製剤が不足のため、長期間順番をまつ状態でした。その頃、厚生省の「下垂体性小人症の診療・研究」に関する委員会で関西地域を統割されていたのが井村先生でした。先生は成長・発達をつづける子ども達を暖かいまなざしでみつめられ、学校保健を陰で支えて下さいました。

特別講演は先生のライフワークである内分泌学の立場から「健やかな身体と心の調整」と題して、科学的な根拠に基づいて、しかもわかりやすく解説していただきました。

『心と身体は密接不可分であり、互に影響しあっている。心とは知・情・意の働くところであるが、このうち身体にもっとも関係が深いのが情（感情）である。

心の情報は、ホルモンを分泌する内分泌系と脈拍や血圧の調整を行なう自律神経系によって身体に伝えられる。

この２系統を調節するのが視床下部である。

成長ホルモン、性機能を調節するゴナドトロピン、ストレスへの抵抗を高める副腎皮質ホルモン等の分泌は、いずれも視床下部により調節されている。

さらに、生体の機能である体温、活動性、ホルモン分泌など、いずれも24時間周期のリズムを持っており、この中枢も視床下部にある。このリズムを乱すような不規則な生活は身体に悪影響を及ぼし、睡眠・覚醒のリズムを乱し、心にも影響する。』

我々は学校保健の場で「正しい生活習慣の育成」とよく口にするが、この事は『心と体の接点にあり、成長や生活リズムを調節し、健康の維持に重要な役割を演じている視床下部の機能を正常に保つ事である』との結びのことばが印象的でした。健康教育活動の新しい展望が開けた思いでした。

特別講演（２）

槇　佐　知　子

「平安朝と医心方」

座長　八　木　　保（京都大学）

平安時代のこと鍼博士丹波康頼が中国の宗以前の文献を網羅して選集した「医心方」を円融院に献上したのが984年のことでした。808年に集大成された「大同類聚方」には康頼の祖先で後漢の霊帝の曾孫阿知王ら、渡来系の処方がちりばめられている。平安期に著された我国初のこの二大医書にめぐり会い、これらを全て現代語に訳すと言う大仕事をされた槇佐知子先生が文学や現代にも伝わる風習と「医心方」の記述について語って下さった。

平安期というと十二単の女性や公達の絵巻物を想像しがちだが、飢饉や疫病・盗賊・呪詛と調伏など上下を問わず呻吟していた時代でもあり、下脾の腹を割いて胎児を薬用にする支配者もいたと言うことだ。「日本霊異記」「竹取物語」・・・「源氏物語」「今昔物語」等々数々ある当時の文献を「医心方」の記述と重ねると歴史の暗がりが炙りだされ、日記や物語が息づき、思想や風習の源流がみえてくると。

道長の日記「御堂関白記」には沐浴の記録があるが、「医心方」には入浴・洗髪・爪切りなどに佳い日

が記されている。道長の息子頼道所有の「医心方」もあったころから、道長の庇護下にあった紫式部も眼を通していたと思われる。

風そよぐならの小川の夕暮れ・・・、上賀茂神社境内、楢（なら）のそよぐ川べりで祓（はら）いをして、白い紙の人形（ひとがた）を川に流してから芽の輪をくぐる。この日に上賀茂神社で頂いてきたという白紙の人形を手にして、夏越祓（なごしのはらい）の話をされた。

さらに、雷に打たれて気絶した体に灰をかぶせて蘇生させた話（今昔物語）、スライドで映して下さりながら語る貴族の子女の裸育児の話（扇面法華経）、呪術も医術など印象に残るお話であった。

世は変わり、外面的に変わるところはあっても、変わらぬ人の姿、理解の仕方などは少々は異なっても変わらぬ健康法、その歴史にみるロマンとともに現代の科学の上での興味も新たになるのである。

第41回近畿学校保健学会　出席者数

（平成６年６月11日）

	名誉会員	評議員	一般会員	当日会員	特別講演のみ	新会員	計
京都	2	18	10	16	10		56
滋賀		11	2	6	2		21
大阪		27	11	7	3		48
兵庫		22	10	13	2		47
奈良		11		5			16
和歌山		8		2			10
その他			2		2		4
計	2	97	35	49	19	20	222
				（含学生）	（含一般）		

事務局関係者３名

4．学会印象記（1）

学会に参加して

大阪成蹊女子短大
上　林　久　雄

今年度の学会は午前中の一般演題の発表と午後の特別講演にしぼり、例年おこなわれているシンポジウムは開催されなかったが、それだけに特別講演の内容に力点がおかれていた。特別講演の最初は、国際的な内分泌学の権威である京大の井村学長先生の「健やかな身体と心の調和」の講演があったが、学問的に大変むつかしい問題を会員に非常にわかり易く解説され、とくに(1)ストレスへの対応、(2)生活リズムの確立等現在の子ども達への保健指導の基礎となる事項を強調されたことは、満席の会員に深い感銘を与えるとともに、非常に勉強になったと思われた。

次いで、平安建都１２００年の学会にふさわしく平安朝時代よりの医学文献の宝庫といわれた「医心方」について、自分で訳された槇佐知子先生より、具体的に平安朝の疾病やその治療等について古人の考え方や慣習などをユーモアを交えて大変分かりやすくお話して頂いたが、現代の何かと心ぜわしい科学技術に埋没し勝ちな生活のなかで、忘れ勝ちな人間の心に一陣の冷風が吹き抜ける感じを会員に与えて頂いたのではないかと思われた。

これらの特別講演は、今日の学校保健関係者の抱える諸問題解決へアプローチする気持を会員に呼び起すことに役立つものであり、企画運営にあたられた八木会長のご盡力にお礼申し上げたい。

一般講演については、主として第Ⅰ、第Ⅱ会場の研究発表を拝聴した。どの発表も最近の子どもを取り巻く環境に対する心身の変化の報告が多くみられたが、とくにＴＶゲームを含めた情報機器と精神機能に対する反応や地域保健活動と協同して成人病予備軍グループの疫学的研究、また夜尿症等の心身医学的研究等、今後の学校保健活動を進めるための基礎的な研究が多くみられ、有意義であった。

いうまでもなく、本学会の設立当初より「学校教育現場での問題点を大学等で深く掘り下げ、その成果を現場にフィードバックさせ、子どもの健康に役立てる」といわれているように、基礎的研究でも、何らかの意味で現場と関連性を持つことが大切ではないかと考える。しかし、研究の内容により大変困難なことも多いので、せめて討論時に座長のリーダシップにより、このあたりの問題解決を考えて頂きたいと思っている。

いづれにせよ、第41回学会を盛会裡に運営された八木会長を始め事務局の先生方のご盡力に心よりお礼申し上げて、筆を止めたい。

学会印象記（2）

神戸大学発達科学部
美　崎　教　正

平安建都１２００年のイベントに沸く京都で、その協会の協賛をも得て開かれた第41回近畿学校保健学会は実に雅びやかであった。特に特別講演としての井村京大総長の心と体の接点についての講話は、学会参加の会員に多くの感動と教育・研究上の示唆を与えるものであった。又、槇佐知子氏による「平安朝と医心方」の講話は、近代医学（脳死と臓器移植に関する）に対する反省を意図するさわりもあり、日頃健康教育に関わる職業にある会員に大いなる興味と関心を抱かしめるものとなった。本学会の企画・運営に献身的努力をいただいた八木保会長はじめ関係役員の方々に心からなる感謝の意を表します。

以下、今回の学会に参加して気づいた事柄を項目別に列記してみます。今後の学会運営に参考になれば幸いです。

1）一般講演での雰囲気と問題点

参加する会員もその数が増し、討議も今までにも増して活発で、演者のみならず参会者にとっても学び多いものとなった。このことは、当学会の成長を意味するものでしょう。ただ、発表に関する資料がプリントの形で直前に配布されるのはありがたいことではあるが、これでは発表が朗読調になり易く、参加者の理解を更にし易くするためには、スライド、ＯＨＰ、ビデオなどの活用を再検討してもよいのではないでしょうか。また、演者が椅座位で発表する（第３会場）の問題なしとはいえない。

2）学生会員の参加について

今回の学会では学生参加がいつもよりは多かったと思われ、会員の指導と熱意の現れと感謝している。今後も引き続き後継研究者の育成のためにも、学生会員の参加を推進すべくその方策を検討すべきものと考えます。

3）今、保健室活動としての学校カウンセリングを考える。

学校保健指導としてのカウンセリングの必要性が叫ばれて久しいが、この学会への演題にこの範疇のものが少ないように思われる。勿論この分野の専門学会はあるが、学校保健の一環として子どもの心を読むことの重要性は誰しも認めるところであり、また、学校現場における子どもの健康問題の中で占めるこころの問題の比重は益々増大しつつある。この時代のニーズを満たす学校保健を考える時、養護教諭がその職務遂行のためにも、子どもの心の発達を理解することは不可欠であると考える。そこで、臨床心理分野の研究者のこの学会への参加を推進するような働きかけが必要なのではないでしょうか。

4）こころの健康－人づくりへの援助－をテーマにした保健室活動の増加

学校保健の焦点がからだの健康問題からこころの健康問題－人間らしさの育成－に変わりつつある現在、こころの発達を促す健康教育を内容とした演題が多くみられたことはまことに喜ばしい傾向である。

5）一般講演・特別講演・懇親会の包括化を願う

ともすれば、この三つは別個のものとして理解されるが、学会とは「出会い、ふれ合い、学び合い」の場である。この目的を達成するためにも、すべての会員が、このすべての場に参加することが大切で、特に懇親会での会員相互のコミュニケーションは講演会場以上の学びの場となりうる。今後はさらに多くの会員の懇親会への参加を期待します。

学会印象記（3）

近畿学校保健学会と私

鳥取大学教育学部
松　本　健　治

第41回近畿学校保健学会は平安建都１２００年記念協賛も得て、６月11日㈯に京都大学総合人間学部の八木保教授のご尽力で実り多い成果をあげられて終了した。当日は前日までの梅雨空から打って変わり朝から天候に恵まれ、多くの方々の出席がみられた。

私事で恐縮であるが、この学会に私が初めて参加したのは恩師武田眞太郎先生が第22回の年次学会長となられた昭和50年からで今回で丁度20年となる。その間、武田先生が幹事長を務められた６年間、私は幹事長の補佐として拙くはあったが、学会通信の作成や近畿６府県を一巡する年次学会のお手伝いをした。武田幹事長時代に学会参加者による学会印象記が学会通信に掲載されるようになった。今回、八木教授から印象記を近畿圏外の参加者として書くようにとの指示があり、かつてこの通信の編集を担当したものとしては何か因縁めいたものを感じた。現在、私はとなりの中国・四国学校保健学会にも参加するようになり３年目となるが、両地方会の比較も若干含め、当日感じたことを述べてみたい。

午前中は３つの会場で29題の一般研究発表が行われた。ちなみに本年山口で行われた中・四国学会では19題であった。これは会員数の差によるものと思われる。私は今回は共同研究者の発表や自分の研究テーマに近い発表の行われた第２会場で、午前中拝聴させていただいた。日本学校保健会の「健康診断調査研究委員会報告書」が本年３月に提出され、胸囲を除く、身長、体重及び座高は、健康状態の評価のための最も基本的な項目であると述べられているが、これらの項目を活用した研究報告が５題、それぞれ、独特の観点で発表されたことは、非常に心強く思った。特に座高のデータを活用された神戸大の横尾教授の下腿長推定のための研究発表は大変示唆に富んだものであった。

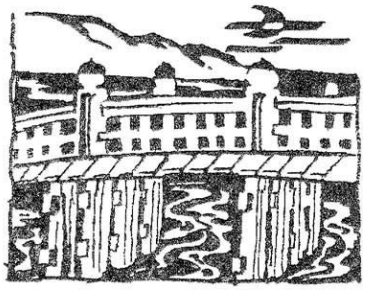
ところで、中・四国学会の理事会（世話人会）では、研究発表者の固定化と高齢化が議題としてあがる現実と比較して、本学会では若手研究者の発表が多く、研究者が着実に育っており、本学会の底力を感じた。学会員の確保や学会活動の充実のknow-howを中・四国学会にも是非活かしたいものだと思った。

今回、評議員会と総会で、本学会の発展に多大の功労があった北村、橘、中牟田の年次学会長経験者の３先生が名誉会員に推挙されたことも大変喜ばしいことであった。

午後からの特別企画は学校保健の基礎科学である医学の現在と過去が取り上げられ、大成功の企画であった。現代医学については、内分泌学の世界的権威である京都大学総長の井村裕夫先生による「健やかな身体と心の調節」と古代の医書に直接取り組んでいる菊池寛賞・エイボン功績賞作家の槇佐知子先生による「平安朝と医心方」の講演があった。

井村先生は、最新の知見を大変わかりやすく、お話し下さり、結論として健康の維持にはストレスへの対応と生体のリズムを乱さないことが重要と締めくくられた。槇先生はお人柄の素晴らしさがにじみでる口調で、平安絵巻の世界だけでない時代背景や葵祭の由来なども混え現代にも伝わる風習をお話し下さり、多くの会員がもっと聴きたいと思ったに違いない。

最後にこの拙文を書く機会を与えて下さった林幹事長と八木年次学会長に感謝したします。



瀬田の唐橋（滋賀）

近畿学校保健学会名誉会員

（平成６年６月現在）

安藤　格　伊東　祐一　今井　英夫　岩田　正俊　小沢　忠治　橘　重美
川畑　要義　黒田　健雄　小出　陽造　佐守　信男　高島　雅行　中牟田正幸
藤井　義顕　圓山　一郎　山本　勝朗　笠松　勇次　北村　李軒

平成６・７年度近畿学校保健学会評議員

（平成６年５月７日現在）

（五十音順　▲印は幹事、○印は新評議員）

◇滋賀県

▲石榑　清司（滋賀大学　教育学部）
伊藤　昭三（市立大津公民館晴嵐分館）
植村　良雄（滋賀県医師会　学校保健技師）
大音　晋一（滋賀県薬剤師会）
蒲生　芳子（長浜市教育委員会　生涯学習課）
小林　清基（東診療所（滋賀県医師会　会長）
中村　清美（大津市立長等小学校）
▲林　正（滋賀大学　教育学部学校保健）
藤居　正博（県歯科医師会）
村山　綾子（県立大津商業高校）
山口　金治（滋賀県学校薬剤師部会　部長）
山元　善弘（滋賀県歯科医師会）
▲板持　紘子（滋賀大学　教育学部附属中学校）
上島　弘嗣（滋賀医科大学　保健管理学）
鵜飼由美子（甲賀町立佐山小学校）
川副　茂（滋賀県県学校薬剤師部会）
木戸　増子（滋賀県立武道館）
草野　薫子（大津市教育委員会学校保健課）
谷川　尚己（草津市立高穂中学校）
▲南條　徹（滋賀県医師会　学校医部長）
播磨谷澄子（大津市立打出中学校）
萬木由利子（養護教諭部会）
山岸　司久（元滋賀大学　保健管理センター）
○山野　恒一（滋賀医科大学　小児科）

◇京都府

岡本　忠行（京都府教育庁指導部保健体育課）
金山　政喜（京都府医師会学校医会）
○栗山千代美（京都市立正親小学校）
小島　廣政（京都産業大学）
白木　文代（京都府教育庁指導部保健体育課）
庄司　博延（元　京都女子大学）
鈴木　實（京都府歯科医師会）
忠井　俊明（京都教育大学　保健管理センター）
○津田　謙輔（京都大学　総合人間学部）
友久　久雄（京都教育大学）
永田　久紀（武庫川女子大学　家政学部食物学科）
日比野朔郎（鳴門教育大学）
○福田　潤（京都府医師会　副会長）
○森下　玲児（京都大学　保健管理センター所長）
横田　耕三（京都府医師会　会長）
米田　幸雄（京都女子大学　家政学部被服衛生学）
▲金井　秀子（京都教育大学）
木村　静雄（立命館大学名誉教授）
小西　博喜（京都工芸繊維大学）
酒井　晃（京都市学校医会　会長）
白滝　忠光（京都府学校薬剤師会　会長）
杉浦　守邦（蘇生会病院　健康増進センター）
▲瀬戸　進（大谷大学　文学部保健体育科）
▲妻形八重子（京都市野外活動施設　花背山の家）
寺田　光世（京都教育大学）
仲岡　健（京都府歯科医師会）
西　祥太郎（京都府医師会　学校医部会）
平野登志子（華頂短期大学）
○松浦　賢長（京都教育大学）
▲八木　保（京都大学　総合人間学部）
吉岡　文雄（神戸女子短期大学　保健体育科）

◇大阪府

浅野　宣春（大阪府医師会　学校医部会）
阿部　昌宏（大阪摂南大学）
○安藤　純（大阪府医師会　学校医部会）
井上　忠宏（大阪府医師会　学校医部会）
○入江　悦子（大阪市立　八幡屋小学校）
上野　康夫（大阪工業大学　体育研究室）
鵜飼　大策（学校歯科医）
▲大山　良徳（和歌山大学　教育学部）
大迫　昌二（大阪市学校薬剤師会）
岡崎　延之（大阪女子短期大学）
小野　忠義（元　大阪女子短期大学）
川辺　克信（大阪市天宗保育専門学校）
菊池恵美子（北天満小学校　養護教員会）
小山　健蔵（大阪教育大学）
▲後藤　英二（大阪教育大学）
島津　健三（大阪府医師会　学校医部会）
新谷万里子（大阪市立難波元町小学校）
杉山美代子（大阪市立聾学校）
▲須藤　勝見（大阪教育大学）
高折　和男（大阪教育大学　保健学教室）
田中　桂子（淀川女子高等学校）
玉城　晴孝（大阪府医師会　学校医部会）
出口　和邦（大阪府高等学校歯科医会）
中内　正己（大阪市立高等学校）
中川　八重（大阪市立阿部野中学校）
花原　節子（大阪基督教短期大学）
福本　絹子（大阪成蹊女子短期大学）
藤森　弘（大阪大学医学部　非常勤講師）
▲堀内　康生（大阪教育大学）
松島　紀子（大阪教育大学）
美馬　信（大阪女子短期大学）
三村　信子（大阪市教育委員会　学校保健課）
○光藤　雅康（大阪教育大学）
森　喜代子（大阪市立開平小学校）
東　真美（大阪教育大学）
天冨美彌子（大阪教育大学）
▲一色　玄（大阪市立大学医学部　小児学教室）
井上　幸子（大阪府立刃根山養護学校）
岩井　浩一（大阪大学健康体育部）
▲上延富久治（大阪教育大学）
○江原　悦子（大阪教育大学附属池田小学校）
小河　弘之（大阪教育大学）
○加納　薫（大阪府医師会　学校医部会）
○神木　照雄（堺市中保健所）
角道　静枝（大阪市立扇町中学校）
▲上林　久雄（大阪成蹊女子短期大学）
楠本久美子（大阪教育大学附属高校天王寺校舎）
後藤　章（大阪教育大学）
坂本　吉正（大阪市立大学　児童保健学）
白石　龍生（大阪教育大学）
進　龍太郎（飛鳥病院）
○更家　充（堺市中保健所）
陶山　勝彦（大阪府医師会　学校医部会）
高階　経昭（大阪府医師会　学校医部会）
玉井　太郎（大阪府医師会　学校医部会）
辻　立世（大阪府立島飼高校）
仲井　正名（大阪女子短期大学）
中神　勝（大阪府立大学　総合科学部）

難波　英子（関西女子短期大学）
○西村　民生（修成建設専門学校　一般教育科）
平井　富弘（大阪大学医療短期大学部）
藤岡　千秋（大阪教育大学）
古田　肇子（大阪女子短期大学）
本庄　康一（大阪市立矢田北小学校）
▲松岡　　弘（大阪教育大学）
三村　寛一（大阪教育大学）
三好　暢子（大阪市立住吉第中学校）
門奈　丈之（大阪市立大学医学部　公衆衛生学）
○森内　　徹（歯科医師）
山本　信弘（大阪教育大学）
吉田　浩重（神戸芸術工科大学）
柳井　　勉（大阪教育大学）
○山本　暎子（関西女子短期大学）
吉田　熙延（心斎橋健康クラブ飯島クリニック）

◇兵庫県

青山　泰子（神戸市教育委員会）
荒木　　勉（兵庫教育大学　生活健康系）
和泉　正人（学校医）
内山　三郎（医学研究国際交流センター）
大橋　郁代（兵庫県教育委員会　体育保健課）
萩原　一輝（一輝会　萩原整形外科病院）
家治川　豊（甲南女子大学）
勝山　信房（近畿大学　教養部）
北口　和美（西宮市教育委員会　学校保健課）
倉掛　妙子（夙川学院短期大学）
近藤　文子（兵庫女子短期大学　家政学部）
島田　照三（島田クリニック）
高橋　洋子（兵庫県立八鹿高校）
立石　光代（兵庫県立夢野台高校）
塚本　利之（　　）
中井　久純（神戸国際大学）
長谷川ちゆ子（重春小学校）
原田　碩三（兵庫教育大学　幼児教育）
藤田　大輔（神戸大学　発達科学部）
別府　敏枝（私立仁川学院中高校）
▲美崎　教正（神戸大学　発達科学部）
▲南　　哲（神戸大学　発達科学部）
村井　俊郎（兵庫県学校歯科医会　会長）
山城　正之（神戸大学　発達科学部）
▲横尾　能範（神戸大学　国際文化学部）
明瀬　好子（神戸市立鷹匠中学校）
五十嵐裕子（神戸大学　発達科学部附属明石中学校）
今出　悦子（西宮市立西宮高校）
大江米次郎（大阪樟蔭女子短期大学）
岡本　靖子（兵庫県立長田高校）
奥田　幸子（神戸市立兵庫商業高等学校）
▲勝野　真吾（兵庫教育大学　生活健康系）
▲川畑　徹朗（神戸大学　発達科学部）
北村　庄衛（兵庫県学校薬剤師会　会長）
小泉　直子（兵庫医科大学　公衆衛生学教室）
桜井　久恵（兵庫県伊丹北高校）
住野　公昭（神戸大学医学部　公衆衛生学教室）
田中　洋一（神戸大学　発達科学部）
出井　梨枝（神戸市立須磨高校）
長野　　大（神戸国際大学）
橋野　静子（神戸市立楠高等学校）
○濱中　良郎（兵庫教育大学　保健管理センター）
藤井美恵子（神戸大学　発達科学部附属明石小学校）
平瀬　悦子（武庫川高校）
水野　陽子（兵庫県立宝塚高校）
三野　　耕（兵庫教育大学　生活健康系）
百元　三記（加古川市立平岡南中学校）
山名　康雄（兵庫教育大学　生活健康系）
○山根　洋司（明石市立野々池中学校）
▲渡辺　正樹（兵庫教育大学　疫学健康教育学）

◇奈良県

有山　雄基（奈良県医師会　会長）
河瀬　雅夫（天理大学　体育学部）
▲北村　陽英（奈良教育大学　学校保健研究室）
○北山勘解由（奈良市医師会）
谷掛　駿介（奈良市学校医会）
出口　庄佑（元　奈良女子大学）
西信　元嗣（奈良医科大学　眼科学教室）
藤田　康子（奈良県立明日香養護学校）
森井　博之（天理大学　教養部保健体育科）
矢奥まり子（奈良県立大宇陀高校）
柳生　善彦（奈良県桜井保健所）
山下　節義（奈良県立医科大学　衛生学教室）
○大手　信重（奈良県医師会）
○加納　庸元（奈良市歯科医師会）
北村　翰男（奈良県学校薬剤師会）
竹田　斌郎（奈良市医師会・学校医部会）
▲○田村　雅宥（奈良教育大学　保健管理センター）
○中谷　　昭（奈良教育大学）
○浜口　達子（奈良市学校薬剤師部　会長）
福岡　保郎（奈良県歯科医師会　会長）
○守田　幸美（奈良市医師会　学校医部会会長）
▲八木　　哲（奈良県学校医部会　幹事）
安田　忠男（奈良県薬剤師会　会長）
▲山本　公弘（奈良女子大学　保健管理センター）

◇和歌山県

▲猪尾　和弘（和歌山大学　保健管理センター）
井原　義行（和歌山県高野口保健所）
加藤　　弘（和歌山大学　教育学部保健体育科）
川口　吉雄（和歌山県学校歯科医会）
○北山　敏和（田辺市立上芳養小学校）
○黒田　基嗣（和歌山県立医科大学　衛生学教室）
左海　伸夫（スミヤ・スポーツ科学センター）
芝　　接子（印南小学校）
▲武田真太郎（和歌山県立医科大学　衛生学教室）
辻本　信輝（和歌山県歯科医師会）
中　　俊博（和歌山大学　教育学部保健体育科）
中村　淳一（和歌山県医師会）
○永井　　尚（和歌山県薬剤師会）
松浦　　清（和歌山県薬剤師会　会長）
松本　健治（鳥取大学　教育学部）
宮下　和久（和歌山県立医科大学　衛生学教室）
▲山中　　守（和歌山県医師会学校保健担当理事）
稲田　武彦（市医師会学校保健担当理事）
岩本　謙三（和歌山県学校薬剤師会　会長）
柏井　洋臣（和歌山県学校医会　副会長）
金尾　　宏（和歌山県学校薬剤師会）
木下　　裕（和歌山県医師会）
坂口　弘一（和歌山市学校医会　会長）
○坂本　忠幸（和歌山県立医科大学　口腔外科学教室）
島　　新一（県医師会学校医部会　会長）
冷水　和雄（和歌山県医師会　副会長）
田中　章二（和歌山県教育委員会　保健体育課）
虎谷　良雄（和歌山県医師会）
中村　靖男（和歌山県医師会）
▲橋本　　勉（和歌山県立医科大学　公衆衛生学教室）
▲松岡　勇二（和歌山大学　教育学部保健体育科）
宮西　照夫（和歌山大学　保健管理センター）
森　　道子（和歌山県教育委員会　保健体育課）

近畿学校保健学会会則

第1章　総　　則

第1条　本会は近畿学校保健学会と称する。

第2条　本会は学校保健に関する研究を行い、学校教育に寄与することを目的とする。

第3条　本会の事務所は幹事長のもとにおく。

第2章　事　　業

第4条　本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1．総会、年次学会の開催
2．会誌その他出版物の刊行
3．学校保健に関する調査研究
4．その他本会の目的達成に必要な事業

第3章　会　　員

第5条　会員は本会の目的に賛同し、会費を納入したものとする。

第6条　会員は年次学会、会誌などを通じて研究を発表することができる。また会誌の配布および本会の事業について連絡を受ける。

第7条　本会には賛助会員および名誉会員をおくことができる。

第8条　賛助会員は本会の目的を達成するために賛助の意を表し、評議員会の承認を経たもので賛助会費を納めたものとする。

第9条　名誉会員は学校保健に関し、学識、経験に富み、本会に功労のあったもので、評議員会の推薦にもとづき、総会で承認されたものとする。

第10条　会員は会費を滞納し、若しくは本会の名誉をけがす行為があったときには評議員会の議決により除名することができる。

第4章　役　　員

第11条　本会に次の役員をおく。

1．評議員　若干名
2．幹　事　若干名（うち1名を幹事長、一部を常任幹事とする）
3．監　事　2名

第12条　役員の任期は2年とし、再任を妨げない。役員は会員より選出されるものとする。

第13条　役員の選出方法は別に定める。

第14条　役員の任務を次のように定める。

1．評議員は評議員会を組織する。
2．幹事は幹事会を組織する。常任幹事は会務を処理する。幹事長は学会を代表し、会務を統括する。
3．監事は会計を監査する。

第5章　会　　議

第15条　本会の会議は総会、評議員会および幹事会とする。

第16条　総会は幹事長が毎年1回召集し開催する。必要に応じ臨時総会を開催することができる。

第17条　評議員会は幹事長が召集し、本会の運営に関する重要な事項を審議決定し、総会の承認をうるものとする。

第18条　幹事会は幹事長が召集し、評議員会に提案する議題の審議ならびに総会、評議員会から委任された会務を処理する。

第19条　評議員会および幹事会は構成員の過半数をもって成立する。

第6章　年次学会

第20条　本会は毎年1回年次学会を開催する。

第21条　年次学会は会員のうちから評議員会で選出し、総会で承認され、年次学会の運営にあたる。

2．年次学会長は幹事会に出席することができる。

第7章　会　　計

第22条　本会の経費は、会費、寄附金その他の収入をもってあてる。

第23条　本会の会計年度は毎年4月1日より翌年3月31日までとする。

第24条　本会の収支決算は、監事の監査を受け、評議員会の議を経て総会の承認を得るものとする。

雑　　則

第25条　本会則の変更は総会の決議によるものとする。

附　　則

第26条　会費は年額3,000円とする。

第27条　本会則は、昭和28年6月29日より施行する。

昭和33年6月13日　一部改正
昭和39年5月17日　一部改正
昭和49年9月6日　一部改正
昭和56年7月9日　改正
昭和57年6月8日　改正

近畿学校保健学会役員選出規程

（趣旨）

第１条　この規程は、近畿学校保健学会会則第13条の規程に基づき、近畿学校保健学会役員選出に関する事項を定める。

（評議員の選出）

第２条　評議員の選出は、学会活動等を考慮の上、各府県別に当該地区幹事が推薦し、幹事会の承認を得なければならない。

（幹事の選出）

第３条　幹事の選出等については、次の方法による。

(1)　各府県ごとに、会員の選挙によって当該地区の評議員から選出する。

(2)　選挙権及び被選挙権の有資格者は、前年度までの会費を納入した者とする。

(3)　各地区別幹事の定数は、当該地区被選挙権者の10分の１（端数切り上げ）に１人を加えた数とする。

（選挙管理委員会）

第４条　幹事の選出に当たっては、選挙管理委員会（以下「委員会」という）を置く。

２　委員会は、選挙前の適当な時期に各府県ごとの幹事の互選によって選出された各１人（計６人）で、構成する。

３　委員長は、委員会において選出する。

４　委員会は、４人以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

５　委員会に関する庶務は、学会事務所において処理する。

（投票）

第５条　選挙は、各地区別定数の連記による無記名投票とし、投票は、郵送で行う。

２　同数得票の場合は、委員会において抽選によって決定する。

３　当選人が辞退した時は、次点の者から順次繰り上げるものとする。

（幹事長及び常任幹事）

第６条　幹事長及び常任幹事は、幹事の互選により選出し、評議員会の議を経て、総会において承認を得なければならない。

（監事）

第７条　監事は、幹事長が推薦し、幹事会において承認するものとする。

附　則

１．本学会役員に任期中の地区異動があった場合には、当該役員は、任期満了まで、暫定的に選出地区にかかわりない役員としてとどまる。

ただし、その地区異動が、選出された年度の次の年次学会時までであった場合には、当該役員の転出した地区は、補充の役員を選出することができる。この場合、補充役員の任期は、転出役員の残りの任期とする。なお、補充役員の選出方法については、当該地区役員に一任する。

２．本学会役員の任期中の事故等に関しては、前項を準用する。

３．この規程は、平成３年６月15日から施行する。

平成６年秋の関連全国学会・大会案内

学　会　名	開催期日	会　　場	事務局・連絡先
第41回日本学校保健学会	94年11月25日～11月26日	八尾市文化会館（プリズムホール）	〒582 大阪府柏原市旭ヶ丘4－698－1 大阪教育大学保健学科 上延・高折 TEL 0729－76－3211 FAX 0729－76－3265
第53回日本公衆衛生学会総会	94年10月13日～10月16日	鳥取県民文化会館	〒680 鳥取市東町１丁目220番地 鳥取県福祉保健部 福祉保健課内 TEL 0857－21－9678 FAX 0867－26－8116
第41回日本小児保健学会	94年９月28日～９月30日	茨城県立県民文化センター 水戸市千波町東久保697番地 TEL 0292－41－1166	茨城県立こども病院長 澤田 俊一郎

平成６年度会費納入について

昭和57年度より学会会則が改正され、会員制が明確に打ち出されております。したがって、年会費を納入されないと、翌年度から学会通信その他の案内が送られなくなります。

平成５年度および平成６年度の会費（各3,000円）が未納の会員の方は、至急同封の振替用紙を使って、学会事務所まで納入されますようお願いします。